

身延山内金石文の研究

——蕪師堂付近石造物群を中心に——

林 是 恭

一、はじめに

本研究は、日蓮宗総本山身延山久遠寺を擁する身延山内に存在する金石文史料のうち、これまで未調査の石造物に焦点を当て、これらを調査することによってその造立年代や埋葬者の地域的特徴を明らかにし、それらの人々の身延山信仰の形態に着目しながら、石造物造立という宗教的営みを身延山史の中に位置づけようと試みるものである。本稿では、これらの観点から身延山内において継続して調査中である、身延山内に所在する石塔・墓塔類の調査において、上ノ山蕪師堂付近に見られる石造物群について報告するものである。

二、上ノ山および蕪師堂について

上ノ山地域は、現在の久遠寺裏手にあり、大本堂裏手

の参道から本地堂（上行堂）や十如坊（鬼子母神堂）、丈六堂や大光坊（三光堂）などを経て奥之院思親閣へと向かう、主に参道に沿った山中のことを指す。伝承では、はじめ六老僧である日朗が道を開いたと伝えられ、思親閣より数丁下った場所には、日蓮聖人が思親閣に登られた際、日蓮聖人の喉の渇きを潤そうと日朗が山頂より下り、清水を汲んで給仕したとされる日朗上人井戸（水屋堂法明坊）が存在する。

この地域は、身延山三十三世遠沾院日亨著『身延山諸堂記』^②（以下、『諸堂記』）によれば、

從上之山通
至奥之院之部

奥院道行程五十丁之間有^①之^②諸堂^③

とあり、近世以降多くの堂塔が建立されてきたことが確認できるが、『身延鑑』に「大木古木、森々として、道の左右には国々よりの収骨の塔婆石塔そのかずしらず」^④



蓮師堂

とあるように、久遠寺の裏側上手にあって、杉林に囲まれたその宗教的景観からか、今日に至るまで、大名家をはじめ、庶民の墓塔も多く造立建塔されてきている。

本稿で調査対象とする一帯の中心にある蓮師堂は、身延山第二十九世隆源院日蓮の廟堂であり、堂内に日蓮の五輪塔が祀られている。地理的位置は、圓光庵と丈六堂

のほぼ中間で、丈六堂のやや下方に位置し、丈六堂より十如坊へと下る道の途上に存する。蓮師堂は、はじめ建立の年代が定かではないが、現在の堂宇は明治八年（一八七五）身延山大火の際に焼失、同九年身延山第七十四世自厚院日鑑の代に再建されたもので、後董問題の所伝から現在も腹の病の守護神として祀られている⁵⁾。また近年では、平成十四年（二〇〇二）に蓮師講である隆源会によって堂宇に修繕が施されている。

三、調査対象

調査対象の石造物は、蓮師堂付近に概ね五群に分けて存在するが、特に第一群から第四群については、集約された状況を見る限り、比較的最近になって整理されたものであると推察される。例えば、丈六堂前の無縁墓塔群は日蓮宗尼僧法団によって昭和二十六年に整理されたものであるが、おそらくはそれとほぼ同時期に蓮師堂付近に散在していた石造物を集約整理されたものでありうと考えられる。

各地域の石造物の総数は表一の通りである。

第一群は、蓮師堂の手前向かって左側に存し、六十一基の石造物を確認することができる。

表一 調査石造物数

| 地点番号 | 石造物総数 |
|------|-------|
| 第一群 | 61 |
| 第二群 | 14 |
| 第三群 | 69 |
| 第四群 | 44 |
| 第五群 | 30 |
| 合計 | 218 |

延師堂向かって右側には、伊予西条初代藩主である松平頼純の室清性院殿の五輪塔、同じく頼純の子息靈妙院殿、同じく頼純の嫡子豊後守天理院殿の墓塔が延師堂右面に沿う形で存しているが、第二群から第四群の石造物はそれらと同じ並びで、より延師堂の奥側へ向かって位置している。

第二群は十四基、第三群は六十九基、第四群は四十四基の石造物が確認できる。

第五群は、延師堂裏側の一段低くなった場所に展開しており、自然の巨石に紀年銘を刻んでいるものもあることから、第一群から第四群までの整理された区画とは異なり、恐らくは石造物造立当時より変更を加えられることなく、往古よりの墓域として存在していると思われる箇所である。石造物数は三十基が確認できる。

以上のとおり、総数は五ブロック二一八基の石造物を

検出した。

四、調査方法

本研究では、近代以降の身延山史の再現を目的としなので、調査対象の石造物の年代を明治以降を含めないものとし、明治元年である慶應四年（一八六八）までの石造物を対象とした。また、石造物に刻まれた年代については、①被葬者・被供養者の没年月日、②供養の行われた年月日、③石造物の造立年月日などの可能性が考えられるが、実質的には、石造物の紀年銘だけの情報では、このいずれとも決定しがたいところである。一般的に石造物の中には、「建之」あるいは「造立之」と刻まれて造立年月日を明らかにし得るものもあるが、今回、特にこのような記載が見られない場合は、原則的に被葬者・被供養者の没年として理解することとした。

また、一つの石造物に複数の被葬者・被供養者名が見られる場合は、少なくとも、当該石造物が造立されたのは新しい年号以降であることは確実であることから、新しい年代を代表させてその石造物の位置づけを行った。

具体的な調査方法は、年代や有縁・無縁を問わず、原則全ての石造物に番号を付け、その中から該当する時代

のものを抽出し、一点ずつ写真撮影をするとともに、可能な限り紀年銘の判読を行った。紀年銘の判読には、大量のLEDを使用し、斜方向から光を当てることにより線刻されている銘文に影をつけ、肉眼で観察した。これによって読取りが困難であったものや、古い紀年銘をもつ石造物などは拓本を採取して判読を行った。また、これらの石造物を形態ごとに板碑形・角柱形・自然石型・笠付形・蒲鉾形・円柱形に分類し、法量はそれぞれの総高・最大幅・奥行を計測した。

石造物の表面は、その多くが非常に摩耗しており、紀年銘の十分な解読は困難であったが、これらを各ブロックごとを主分類としつつ、形状・法量・紀年銘を加え、また年代の判明するものは西暦を加えて調査結果の一覧表にしたものが稿末の別表一である。

五、調査結果の概要

調査対象とした地点ごとの石造物調査概要は、表二の通りである。

総石造物数は合計二一八基で、このうち、紀年銘が有り、年代も刻まれているが年代が判読できないものが七基、年代の刻まれていないものが三七基、摩滅および他

表二 石造物調査概要

| 地点番号 | 年代確認数 | 年代判読不能 | 年代無し | 年代調査不能 | 寛文以前 | 明治以降 | 石造物総数 |
|------|-------|--------|------|--------|------|------|-------|
| 一群 | 48 | 1 | 9 | 3 | 1 | 6 | 61 |
| 二群 | 14 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 14 |
| 三群 | 46 | 2 | 18 | 3 | 0 | 0 | 69 |
| 四群 | 30 | 4 | 5 | 5 | 0 | 0 | 44 |
| 五群 | 24 | 0 | 5 | 1 | 1 | 1 | 30 |
| 合計 | 162 | 7 | 37 | 12 | 2 | 8 | 218 |
| % | 74% | 3% | 17% | 6% | 1% | 4% | |

%は、小数点以下四捨五入

の石造物との位置的關係から、年代の線刻が不明なものが一二基であった。

また、年代の確認できた石造物の内、近世初頭の寛文以前の年号を持つ石造物は二基、明治以降で調査対象としなかった石造物は八基であった。

六、石造物の年代推移

今回の調査では中世の年代を持つ石造物は一基も確認できなかったが、年代の確認できた石造物のうち、前述の通り近世初期の年代を持つ石造物を二基披見することができた。

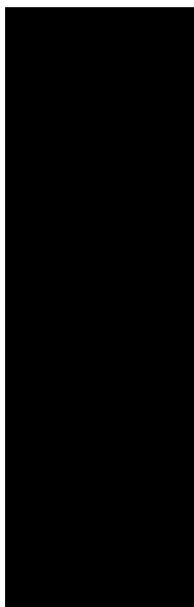
最古の紀年銘をもつ石造物は、総番号（別表一参照）

二〇〇、第五群に存する寛永十二年（一六三五）銘を刻む石造物で、宝珠を持つ笠付形の石造物であり、正面のみに紀年銘を刻んでいる。石造物の大きさと形状からして、被供養者は庶民ではなく、ある程度地位のある人物であることが推察される。次に古い総番号四七、第一群に存する正保二年（一六四五）銘の石造物は、同じく笠付形の石造物であるが、笠の軒は反らず、笠上部の宝珠も元々存しなかったようである。墓塔の形状を見るに、笠部分に「ぼぞ」が無く、当該部分は本来この石造物のものではなかった可能性が考えられる。銘文は正面に光明点を持つ題目および年代、被供養者名を刻み、左右面に釈迦・多寶を刻んでいる。

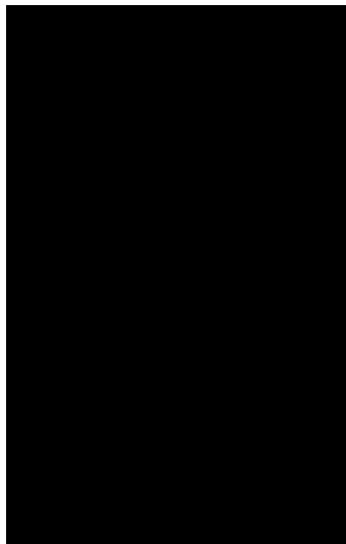
二〇〇番 寛永十二年（一六三五）銘石造物



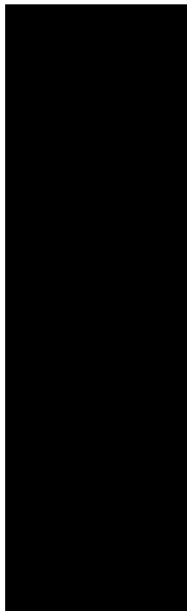
同 拓影



四十七番 正保二年（一六四五） 銘石造物

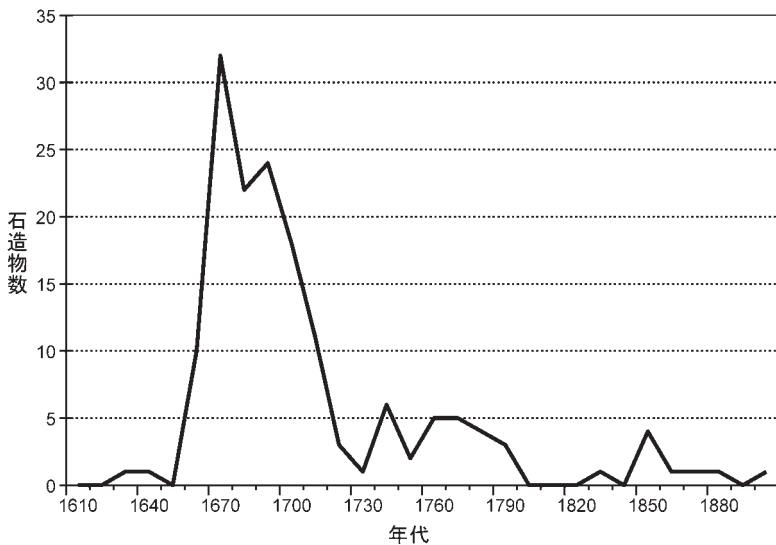


同 拓影



以上の近世初期の年代を持つ二基以降、近世中期からの年号を持つ石造物を一五五基確認することができるが、これらの石造物年代の推移を十年ごとに図示したものが図一である。

図一 石造物の年代別推移



これによると、寛文年間に入った一六六〇年ごろから急激な石造物の増大を見ることができ、一六七〇年代の寛文く延宝年間にはその頂点に達し、以後減退はするが一七二〇年ごろまで一つの大きな山を形づくっていることが確認できる。

これを検討するために、当該期江戸中期における身延山の状況をみてみると、明暦二年（一六五九）身延山二十七世通心院日境は江戸にて遷化し、翌三年妙心院日奠が滝谷妙成寺より身延山二十八世に晋山している。日奠は八年間の在位中、諸堂宇の整理に尽力し、それまで狭い境内地の間々に羅列して建立されていた堂宇を移転・整備したことで知られている。特に、日奠の弟子にして当代の執事であった円正院日精などによって上ノ山奥の院への参詣道が拡張されたことにより、奥之院への参詣が容易になり、これに伴って日奠の在位中、片隈に存した八幡社をはじめ、位牌堂前の五重塔、二天門側に存した丈六堂など、多くの堂宇が上ノ山へ移転建立されている。これら日奠代に建立・移転された堂宇を『諸堂記』や『身延山史』などにより確認してみると、次の表三のとおりである。

表三 日奠代建立・移転堂宇

| 年代 | 建立・移転堂宇 |
|------------|------------------------|
| 寛文元年（一六六一） | 中蔵・東蔵創建。 |
| 寛文二年（一六六二） | 五重塔を位牌堂前より上ノ山へ移転。 |
| 寛文二年（一六六一） | 十羅刹堂、十如坊を祖師堂上より上ノ山へ移転。 |
| 寛文四年（一六六四） | 丈六堂を二天門側より上ノ山へ移転。 |
| 寛文五年（一六六五） | 惣（総）門建立。 |
| 寛文五年（一六六五） | 上ノ山千仏堂を移転、三光堂建立。 |
| 寛文七年（一六六七） | 一切経蔵を上ノ山に移転。 |
| 日奠代（年代不明） | 八幡社を片隈より上ノ山へ移転。 |
| 日奠代 | 大黒堂を上ノ山へ移転。 |
| 日奠代 | 東照大権現宮を上ノ山に建立。 |

これを見ると、先述の通り日奠の代に上ノ山への堂宇建立が盛んに行われたことが改めて確認できるが、逆に日奠の代以前に上ノ山に建立された堂宇を身延山史の中に尋ねてみると、わずかに十一世行学院日朝の時代の明応三年（一四九四）に、十如坊と十羅刹堂が建立されているのを見るのみである。^⑧しかし、これとて『諸堂記』

によると「祖師堂ノ上ニ有」とあるによれば、当時の境内の地形や祖師堂の正確な建立地点は具体的に不明なれども、ニュアンス的に「祖師堂のすぐ上の辺り」に存したものと考えられ、現在意味するところの上ノ山とは少々異なるのではないかと思われる。また、『身延山史年表』によれば、これ以後、日奠の代までに上ノ山に関する記述は、十二世円教院日意の稚童鶴若丸が上ノ山にて身を投じたという記述を見るのみであり、これらのことから、実質的に日奠が上ノ山を久遠寺境内地として開発したといっても過言では無いと思われる。

寛文七年（一六六七）、日奠が遷化すると、隆源院日蓮が京都妙顕寺より二十九世に晋山している。日蓮は西谷檀林を再興し、在世中の寛文十年（一六七〇）には、松山城主松平定長により、上ノ山に二重宝塔が建立されている。三十世寂遠院日通代には、京極信濃守高勝の保護によって三光堂に金体釈尊像が建立され、三十一世一円院日脱代には、貞享二年（一六八五）より八年かけて、祈禱堂三十六ヶ坊が身延山内に建立、その内、十一ヶ坊が上ノ山へ建立されている。特に日脱代には、名実ともに伽藍堂塔の建立整備が整い、身延山の最盛期を現出した時代であったことが知られている。

このように当該期における上ノ山の様相を見てきたが、石造物に刻まれた年代別の数量を見てみると、一六七〇年代の三二基、一六八〇年代の二二基、一六九〇年代の二四基が他の年代に比べて突出しており、その推移は先に示した図一の通りである。つまり石造物数が増大するこの時代は、これまで見てきたように二十七世日境から三十一世日脱までの、特に上ノ山の参詣道が拡張されて、そこへ堂宇が盛んに建立された時期と重なっていることが確認できるのである。また、日奠の前代である日境の代には、久遠寺三堂のうちの一つである位牌堂が久遠寺史上はじめて建立されていることも注目される。これは、図一の石造物数に表われているように、身延山へ納骨や納牌を希望する信者がこの時代において増大したため、久遠寺側としてもそれらの信徒の要望に応え、受け入れるべく必要な堂宇を建立・用意したものと考えられるのではなからうか。

七、石造物の形状

石造物の形状について着目してみると、石造物の形状としては、板碑形・角柱形・自然石形・笠付形・蒲鉾形・円柱形の六つの形状をみることができる。これら形状別

表四 形状別の数量とその割合

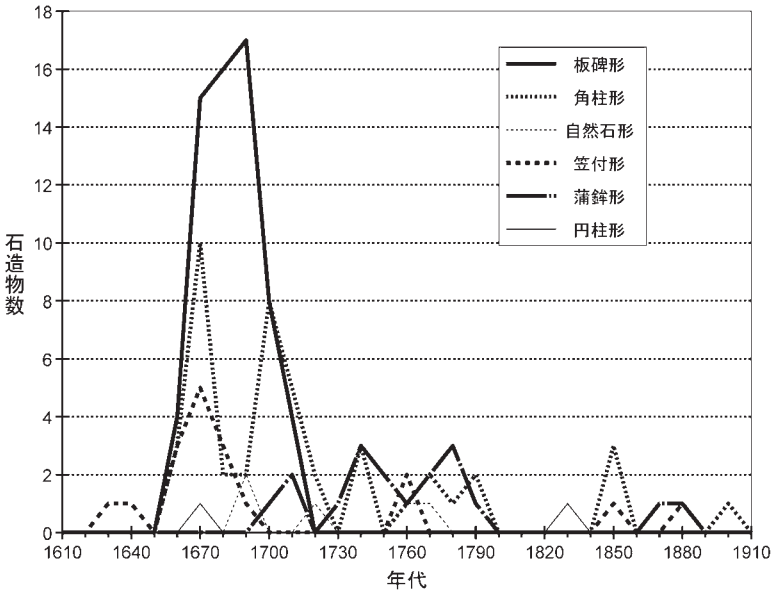
| 形状 | 石造物数 | % |
|------|------|------|
| 板碑形 | 99 | 45% |
| 角柱形 | 65 | 30% |
| 自然石形 | 9 | 4% |
| 笠付形 | 21 | 10% |
| 蒲鋒形 | 21 | 10% |
| 円柱形 | 2 | 0.9% |
| 合計 | 218 | |

%は小数点以下四捨五入

の数量とその割合を示したものが表四である。

これを見ると、板碑形の石造物が半数近くを占め、次いで現代においても主流となっている角柱形のものが多い。数を占めていることが確認できる。この石造物の形態が、年代によってどのように推移したかを示したものが図二である。これによれば、寛文年間に入る一六六〇年ごろより板碑形と角柱形の石造物が増大し、特に板碑形の石造物が急速に数を伸ばしているが、板碑形は享保五年（一七二〇）ごろ姿を消し、以後、角柱形・笠付形・蒲鋒形が渾然として造立されていることが確認できる。角柱形の石造物が板碑形と同時期の増大をみるのは、一般

図二 形状別の年代推移



的な角柱形墓塔の隆盛が一七世紀に入ってからのもの
あり、恐らくは身延山内における墓塔造立の流行におい
ても、その波が押し寄せたものではないかと考えられる。
しかしながら、これら石造物の主な造立主である庶民に
おいては、未だコストの安い板碑形の石造物の方が造立
しやすかったものと思われ、以後約半世紀は板碑形の石
造物が主流を占めたことが確認できるのである。

八、石造物に刻まれた地名

これらの石造物には、その石造物の造立供養をせしめ
た施主名が刻まれている場合があり、その場合は、多く
にその住している地名も記されている。また地名だけで
はなく、一二七番や一三一番のように、菩提寺と思われ
る寺院名や、取次いだ寺院名が刻まれた石造物も披見さ
れる。

本調査において地名が確認できた石造物は、全部で六
三基あり、全体の二九％に当たる。表五は、確認できた
地名を抽出し、一覧にしたものである。これによると、
江戸・上総をはじめ、奥州・越後・加賀・美濃・但馬・
播磨・丹後・肥後等の国名を見ることができ、東北地方
から九州地方まで、幅広い地域の人々が身延山へ参詣し、

関係者の追善をし、石造物を造立していることが確認で
きるのである。

表五 紀年銘に見られる地名一覧

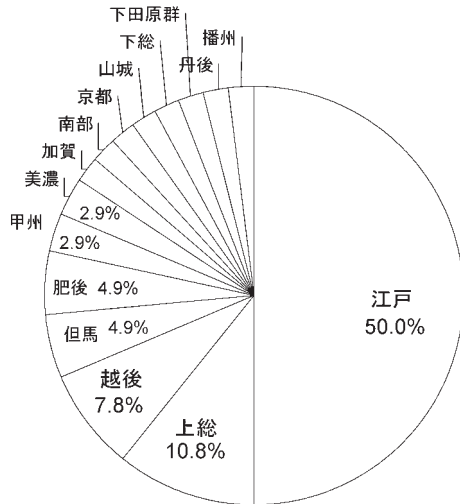
| 総番号 | 地名 | 年代 | 総番号 | 地名 | 年代 |
|-----|------------|------|-----|-----------|------|
| 38 | 江戸深川入□町 | | 3 | 肥後熊本 | 1868 |
| 40 | 播磨姫路平野町 | 1692 | 4 | 肥後熊本城下 | 1850 |
| 43 | 江戸小石川 | 1689 | 9 | 下田原群 | 1715 |
| 44 | 江戸(柳原?) | 1710 | 12 | 江戸本郷新町屋 | |
| 45 | 美濃岐阜 | | 16 | 江戸巢鴨町 | 1768 |
| 46 | 江戸小石川 | | 17 | 江戸品川宿 | 1786 |
| 50 | 上総国市原郡八幡□ | 1691 | 18 | 江戸 | 1776 |
| 56 | 丹後峰山寺 | 1690 | 19 | 江戸巢鴨 | |
| 70 | 甲州針山村 | 1676 | 20 | 江戸巢鴨町 | 1788 |
| 73 | 武州江戸住牧 | 1677 | 21 | 江戸□六番町 | 1775 |
| 75 | 西八代群栄村 | 1769 | 22 | 上総國□隅群中野村 | 1763 |
| 77 | 美□岐阜住 | 1683 | 23 | 江戸品川宿 | 1757 |
| 78 | □□高田住 | 1707 | 25 | 江戸品川宿 | 1758 |
| 81 | 越□高田住 | 1708 | 26 | 下総□□□大月村 | 1702 |
| 85 | 山□□山城國□安城住 | | 27 | 加賀国金沢□町 | 1689 |
| 88 | 江戸 | | 30 | 肥後國□□郡 | 1776 |
| 89 | 江戸 | 1669 | 31 | 上総國八幡村 | 1710 |
| 91 | 武□池上村 | 1696 | 32 | 上総國八幡村 | 1710 |
| 94 | 越後高田清水〔 〕 | 1692 | 33 | 江戸 | 1691 |
| 95 | 上総國八幡村 | 1704 | 35 | 武江巢鴨町 | 1785 |
| 99 | 但馬城崎豊丘 | | 36 | 奥州南部盛岡 | 1627 |

| 総番号 | 地名 | 年代 |
|-----|-------------|------|
| 104 | 越後國〔 〕城郡高田 | |
| 109 | 江戸 | 1669 |
| 110 | 上総國八幡村 | 1704 |
| 112 | 江戸小石川 | 1673 |
| 114 | 但馬 | |
| 115 | 江戸 | |
| 118 | 但馬□□主 | |
| 125 | 江戸小石川 | |
| 127 | 江戸下谷善□寺 | 1687 |
| 131 | 江戸小石川妙傳寺 | 1688 |
| 132 | 江戸〔 〕 | 1672 |
| 136 | 江戸室町二丁 | 1682 |
| 139 | □□女谷中本行寺 | 1679 |
| 162 | 京都筒金屋 | 1718 |
| 163 | 上総國八幡村 | |
| 164 | 江戸 | 1698 |
| 174 | 江戸 | |
| 176 | 越後國高田 | 1673 |
| 187 | 妙應寺□群 本法寺□群 | 1683 |
| 193 | 江戸芝 (芝金?) | 1799 |
| 204 | 江戸芝□□町 | 1707 |

また、これら抽出した地名ごとの割合を示したものが図三である。

これによれば、それぞれの地名を刻んだ石造物は、江戸地域が最多で約五〇%を占めており、次いで上総、越後の順で多いことがわかる。この石造物の数は、少なくとも本調査から見られるところの、当時における身延山への参詣者の比率であると理解してよいであろう。江戸・上総・越後と参詣の多いこれらの三地域は、全て日蓮聖人の生涯において強い関連性のある地域の国々である。つまり、このような地域においては、近世の早い段階において身延山への参詣と、身延山内への納骨や供養のた

図三 紀年銘に見られる地名の割合



(加賀から播州までの8地域は、各2%)

めの石造物の造立があったことが確認できるのである。特に江戸地域においては、その地域的特性や、身延山からの地理的位置から、近世中期以降、身延山の出開帳が行われるなど、祖师信仰の高揚が最も高かった地域であることが知られている。これら江戸の人々の身延山との関係は、石造物だけでなく、諸堂の建立等に際して、またそこに奉納された仏具類の施主名などに見ることが

でき、『諸堂記』に見られる施主名等にそれらの人々の丹精の一端を伺うことができるのである。

九、おわりに

江戸時代に入り、祖師信仰が高揚する中、身延山への庶民による参詣も前時代に比して増大したことが知られる。これらの人々は、ほぼ同時代の万治二年（一六五九）に身延山へ参詣に来った深草元政の『身延道の記』に記されているように、御廟所と久遠寺境内地だけでなく、奥之院へもその多くの者が参詣登山したものと考えられる。その際、麓坊や妙石坊側から上るルートだけでなく、上ノ山を通って奥之院へ向かうルートを選択する人々も多くなったものと推察され、深草元政もそうしたものであったと考えられる。元政は、『身延道の記』において、八月二十七日奥之院に参詣した際、

二十町ばかりのぼりて、水飲みといふ所より道、こ
とにけはしくて、たびたびやすみて、かろうじて着
きぬ¹⁾

と記しており、上ノ山より奥之院への参詣道が大変険しいものであったことを綴っている。

元政が嘆いたように、同時期に奥之院へ参詣した人々

はその道の険しいことを口にしたものと思われ、日奠の代に上ノ山参詣道が拡張整備されたのは、それが新たに意図されたものであったのではなく、既にあったそのような人々の声を受けてのものであったのではないかと推察されるのである。そして道が拡張され、上ノ山に堂宇が移転されるに伴って、今回明らかになったように、墓石をはじめとする石造物も上ノ山に多く造立されるようになっていったものと考えられるのである。

ところで、御廟所域は日蓮聖人在世当時より行われ始めた納骨信仰によって、支院や付近の住民の墓石を始め、日蓮聖人を渴仰追慕する諸国門徒の埋骨の地となり、日蓮聖人滅後は様々な人々の墓石が乱立する状態となっていた。三十三世日亨は、身延山にあって最高の聖域である場所のこの様な状態を憂え、

此ノ処ハ祖師当山最初御建立十間四面ノ堂地也九箇
年読誦説法書写本尊著述諸書ノ靈地也亨師ノ云ク
從^ニ往古^ニ為^ス真俗葬送場^ト山地狭小^ト別無^ニ広地^ト故
歎仰願^ハ後代^ハ貫首^ハ此^ノ処^ヲ為^シ清浄ノ靈地^ト立^テ四方^ノ境^ヲ葬
場^別可^レ設^レ之^ト

と、後代の法主にこの地域を浄化するよう、遺戒・要請している。このような状態にあって、久遠寺がどのよう

に許可を出していたのかは不明であるが、上ノ山へ造立されはじめた石造物は、恐らくは既に飽和状態にあった御廟所域より上ノ山地域への、身延山内における石造物造立地域の変遷といえるのではないかとも思われるのである。つまり上ノ山は、身延山内において新たな聖地となるべく開かれ、そして認識されていたのではないかと考えられるのである。

最後に、本稿で報告した石造物は、身延山上ノ山に存在する石造物のごく一部分のみの調査結果である。したがって、今回認められた様々な傾向は、今後の調査によってその全体像があらわされたときには、異なる結果になることも十分に予想される。

今後は、さらに多くの石造物の調査を進めるとともに、金石文史料だけでなく、あわせて文献史料の面からも研究を進めていきたい。

註

(1) 上ノ山は、「上ノ山」「上之山」「上の山」等と表記されることがあるが、その意味する地域に何ら差異は認められないため、資料中以外は上ノ山を用いる。

(2) 身延文庫蔵。『棲神』五十六号（昭和五十九年三月 身

延山短期大学学会）、同五十七号（昭和六十年三月）に北沢光昭氏によって翻刻紹介されている。

(3) 『身延山諸堂記』（『棲神』五十六号 昭和五十九年三月 身延山短期大学学会 一七〇頁）。

(4) 『新訂 身延鑑』（平成十三年二月 身延山久遠寺）五三頁・五五頁

(5) 『身延山史』身延山久遠寺編（大正十二年八月）一四八〜一五一頁参照。

(6) 『身延山史年表』（昭和六十年五月 身延山久遠寺）八〇頁。

(7) 『身延山諸堂記』（『棲神』五十六号 一七六頁）

(8) 『身延山史年表』八十四頁。

(9) 二十七世日境代の慶安四年（一六五二）、十三間半十一間の位牌堂が建立された。

(10) 身延山久遠寺の出開帳については、北村行遠著『近世開帳の研究』（平成元年四月 名著出版）一三三〜一五六頁に詳しい。また、祖師信仰については、望月真澄著『近世日蓮宗の祖師信仰と守護神信仰』（平成十四年 平楽寺書店）などの研究がある。

(11) 深草元政『身延道の記』・（高山一行『身延参詣記拾遺』昭和五十七年七月）一〇八頁。

(12) 『身延山諸堂記』（『棲神』五十六号 一八八頁）

別表一 上ノ山苑師堂付近 石造物一覽

| 4 | 3 | 2 | 1 | 総番号 |
|--|------|-------|------|------------|
| 1 | 1 | 1 | 1 | 区画 |
| 4 | 3 | 2 | 1 | 区画内 番号 |
| 角柱形 | 蒲鉾形 | 角柱形 | 笠付形 | 形状 |
| 97.0 | 95.3 | 135.0 | 88.0 | 総高 |
| 47.5 | 48.8 | 55.5 | 46.5 | 横幅 |
| 48.0 | 48.0 | 51.0 | 47.0 | 奥行 |
| <p>(左) 九列肥後熊本城下 右萬一丁目 吉井元女建之</p> <p>(正) 妙法 示仙日栄法師 先祖代々之精霊 肥後熊本町 慶應四辰正月十七日立之</p> <p>(右) 西嘉永三庚年八月廿八日 教嘉永二己年十二月十九日 喜嘉永二己年十二月十九日</p> | | | | <p>紀年銘</p> |
| <p>(左) 圓光庵 別當 明治三十七年十二月十五日化 在米国 中澤達汝 孫朝重 三上松枝</p> <p>(正) 圓光庵 潮心院日皎聖人 三十九世 首長山 二十九世</p> <p>(右) 安政六己未九月十八日 圓光庵 顯映院日了大徳 當国巨摩群小室之産行年三十才 一代</p> | | | | |
| 1850 | 1868 | 1904 | 1859 | |
| | | | | |
| | | | | 備考 |

| | | | | | | | | | |
|----------------------------|---------|----------------------|--|---------------------------------|--|--|--|-----------------------|-------------------------------------|
| 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 |
| 板碑形 | 角柱形 | 角柱形 | 板碑形 | 天線不明 板碑形 | 角柱形 | 角柱形 | 自然石形 | 角柱形 | 笠付形 |
| 26.3 | 52.0 | 43.5 | 69.0 | 52.0 | 48.5 | | | | |
| 64.7 | 22.5 | 20.8 | 31.5 | 29.0 | 22.5 | | | | |
| 14.0 | 14.5 | 13.3 | 16.0 | 17.5 | 19.5 | | | | |
| (正) 妙法 施主(一)(以下判読不能) | | (左) 妙恩(一) 屋長五郎 | (正) 圓入道覺信士 春光院大誉等信士 春正院妙春日恵信女 宗恩(一) 江戸本郷新町家 | (右) 先祖代々一門法界 妙雨信女 妙現信女 | (正) 妙法 慈父(一) 妻(一) 妙讚(一) 施主(一) 悲母(一) 慈父(一) 道(一) 妙悦(一) 息女(一) 妙清(一) 受灵(一) | (正) 延宝(一) 灵(一) 灵(一) 灵(一) 灵(一) 元禄二己巳六月十五日(一) 七月十九日 | (左) 施主(一) 若林喜(一) 衛門(一) 今(一) 弥兵(一) | (正) 摩滅判読不能 下田原郡 | (右) 正徳五乙未歳 八月十七日(一) 摩滅判読不能 |
| 1693 | | | 1689 | | 1715 | | | | |
| | 摩滅判読不能。 | | | | | | | | 5～8は全て近代。 |

| | | | | | |
|--|-------------------------|-------------------------------------|---|---|---|
| 20 | 19 | 18 | 17 | 16 | 15 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 20 | 19 | 18 | 17 | 16 | 15 |
| 角柱形 | 角柱形 | 蒲鉾形 | 蒲鉾形 | 蒲鉾形 | 角柱形 |
| 46.0 | 46.8 | 46.5 | 51.0 | 44.5 | 50.0 |
| 21.0 | 21.5 | 23.6 | 23.2 | 22.0 | 15.4 |
| 18.0 | 18.0 | 16.2 | 14.8 | 14.0 | 15.0 |
| (左) 施主武江巢鴨町 齋田半三郎 (正) 真如院□□日□靈 (右) 天明八戊申年 五月上旬四日 | (左) 施主江戶巢鴨□平三郎 (正) 〇 | (正) 安永五丙申年 先祖代々 徵妙院□法灵 正月二十二日 | (右) 江戸□□町中村氏 施主妙教 (正) 代々先祖 要修院妙常日榮禪尼 八月初四日 寶歷七丁丑年 鶴岡市郎右衛門 | (正) 妙法 明和五年戊子 二月二十日 真空妙有灵 (右) 志主 江戸巢鴨町 □□□ | (左) 唯心院妙秀 正嶽院求□日玄居士 (正) 蓮池院妙涼日清大姉 □大聖□蓮光寺開山 本立院日然大徳 |
| 1788 | | 1776 | 1786 | 1768 | |
| | (正) は摩滅判読不能。 | | | | |

| | | | | |
|--|--|---|--|---|
| 25 | 24 | 23 | 22 | 21 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 25 | 24 | 23 | 22 | 21 |
| 蒲鋒形 | 自然石形 | 蒲鋒形 | 角柱形 | 角柱形 |
| 52.5 | 57.7 | 52.5 | 42.8 | 53.0 |
| 24.5 | 20.5 | 24.8 | 23.0 | 21.0 |
| 15.0 | 16.0 | 14.0 | 18.0 | 19.5 |
| <p>（正） 宝曆八戊寅天四月廿一日□□立 代々先祖 於吉兩親 家内精霊 江戸品川宿野口小左衛門</p> | <p>（正） 妙法 顯妙院日義 明和二乙酉天 五月廿七日</p> | <p>（左） 未見</p> <p>（正） 代々先祖 □ 蓮院宗數日繁信士 宝曆七丁丑天 江戸品川宿 九月十九日 奥田（一）</p> | <p>（左） 上総國□隅郡中野村 正栄山光善寺廿世 第子純素□立之</p> <p>（正） 宝曆十三癸未年 蓮院日賢聖人 三月八日</p> | <p>（右） 江戸□六番町 春田氏 施主貞久院</p> <p>（正） 妙法 仙樹院殿見相妙悟大姉 圓明院殿鏡山智照大姉 安永四年乙未十一月朔日</p> |
| 1758 | 1765 | 1757 | 1763 | 1775 |
| | | | | |

| | | | | | |
|---------------------------------|--|-------------------------------|---|----------------------------|---|
| 31 | 30 | 29 | 28 | 27 | 26 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 31 | 30 | 29 | 28 | 27 | 26 |
| 板碑形 | 蒲鉾形 | 角柱形 | 角柱形 | 板碑形 | 板碑形 |
| 69.0 | 68.3 | 60.3 | 68.0 | 79.4 | 52.7 |
| 29.3 | 27.3 | 27.1 | 26.0 | 31.8 | 24.0 |
| 17.0 | 22.5 | 22.5 | 18.5 | 17.5 | 17.0 |
| (左枿) 上総國八幡村長野喜三郎 蓮種院法壽日寄 妙花靈 | (右枿) 宝永七庚寅八月□□立之 道眼院妙美日□ 智光院妙耀 覺成院了心日證 唯心院妙本 妙法 | (左) 安永五丙申年 四月五日立 唯宣院妙胡日常信女 | (右) 心是院妙鏡日儀信女 實道院義徳日明居士 甚深院宗□日示居士 | 悲母 清□院妙玄 施主加賀國金沢□町□□右衛門 | (正) 元禄十五年十二月十三日 慈父 久成院了因日受 宝永七年寅年二月□日 見性院妙實 悲母 壽量院妙因灵 元禄十一戊寅十一月晦日 (左枿) 施主下総□□大月村中村太兵衛 元禄二己巳十月立之 慈父 本行院宗哲灵 |
| 1710 | 1776 | | | 1689 | 1702 |
| | | 近代。 | 摩滅判読不能。 | | |

| | | | |
|---|---|--|--|
| 35 | 34 | 33 | 32 |
| 1 | 1 | 1 | 1 |
| 35 | 34 | 33 | 32 |
| 蒲鉾形 | 板碑形 | 板碑形 | 角柱形 |
| 46.7 | 74.0 | 67.5 | 65.5 |
| 21.2 | 29.8 | 28.2 | 24.5 |
| 17.5 | 20.0 | 17.0 | 18.5 |
| <p>(左) 施主 齋田弥三郎</p> <p>(正) 講院受法日持靈</p> <p>(右) 三月上浣八日 天明五乙巳年</p> | <p>(正) 圓來院殿了悟日得珠因義照 聞法院殿妙悟日乘本是院妙性 先祖代々菩提 施主 圓耀院殿宗立日悟是性院妙貞 成寺院殿妙正日覺信院妙</p> <p>(左) 逆修 妙善日根 受清了圓日淨 九月二日</p> <p>(左) 施主 江戶 右衛門</p> | <p>(正) 元祿四年辛未 九月十日 修了院來廣日祐 順</p> <p>(右) 上総国八幡村植草市子</p> | <p>(正) 宝永七庚寅八月參詣砌立之 聞壽院唱入日了 妙感 妙泰</p> <p>學鷲院日審 妙長 各靈</p> <p>妙法 修要院日玄 妙昭 妙涼</p> <p>(左) 真淨院妙</p> |
| 1785 | | 1691 | 1710 |
| | | | |

| | | | | | |
|-----------------------------|--|-------------------------------|--|--|---|
| 41 | 40 | 39 | 38 | 37 | 36 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 41 | 40 | 39 | 38 | 37 | 36 |
| 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 角柱形 | 角柱形 | 蒲鉾形 |
| 68.5 | 81.5 | 85.0 | 53.5 | 62.0 | 52.0 |
| 27.0 | 32.0 | 32.8 | 23.5 | 21.8 | 22.4 |
| 21.0 | 22.0 | 14.5 | 18.8 | 22.0 | 15.0 |
| (右粹) □ □ 清本町小林庄左衛門 | (正) 妙法 覚心院浄入日忠 善性院妙心日要 宝永二乙酉歳九月二十一日 霊 | (正) 妙法 寛文八戊申(一) 婦(一) | (左) 持仙妙奇 先祖代々精霊 江戸深川入町京屋太兵衛 □外宗三 □外本無 | (右) 貞性廿六日 浄安法信 二日 妙信五日 周廿二日 妙春廿二日 | (右) 寶永四丁亥歳四月十七日 西閏四月十四日 宗貞院妙慶灵 □五月十二日 活遠院善子 □六月九日 喜岸院妙諍 施主奥列南部盛國服部善共衛 延宝九辛酉年五月十七日 高善院宗休日真 |
| 1705 | 1692 | 1668 | | 1687 | 1707 |
| | | 修復跡あり。 | | | |

| | | | | | | |
|-----------------------------|--|--|--|--------------------------------------|--|--|
| 48 | 47 | 46 | 45 | 44 | 43 | 42 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 48 | 47 | 46 | 45 | 44 | 43 | 42 |
| 角柱形 | 笠付形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 |
| 84.0 | 102.0 | 100.0 | 90.7 | 81.0 | 79.2 | 82.0 |
| 29.4 | 35.0 (傘部45.6) | 39.0 | 35.5 | 30.3 | 31.3 | 28.2 |
| 30.0 | 35.0 (傘部40.5) | 21.0 | 16.0 | 16.5 | 21.0 | 16.0 |
| (正) 南無妙法蓮華經 慈母 妙住靈 | (右) 南無多寶如來 施主息女 慈父 道賀靈 (左) 南無釈迦牟尼佛 南無妙法蓮華經 自證院玄仙日議 八月四日 | (正) 妙法 慈父道林靈 祖母妙慶靈 悲母妙久靈 施主 江戶小石川住妙傳 | (正) 南無妙法蓮華經 美濃岐阜住 南院日通 施主弟子 文日運 | (正) 妙法 秋學 各靈位 施主江戶柳原市右衛門 | (正) 妙法 智西月妙秋禪定尼 施主江戶小石川住女 高奉日道秋禪定門 元禄二己巳六月十九日立之 | (正) 妙常靈 是法當 惠運靈 正德二辰三月十八日 宝永五子八月廿六日 正德二辰四月二日 |
| | 1645 | | | 1710 | 1689 | 1712 |
| | | | 修復跡あり。 | | | |

| | | | |
|--|---|---|--|
| 52 | 51 | 50 | 49 |
| 1 | 1 | 1 | 1 |
| 52 | 51 | 50 | 49 |
| 角柱形 | 角柱形 | 板碑形 | 角柱形 |
| 82.0 | 82.7 | 81.8 | 84.2 |
| 28.8 | 29.4 | 31.7 | 28.9 |
| 26.5 | 29.0 | 15.0 | 29.5 |
| <p>(左) 南無釈迦牟尼佛 一乘院妙經日玄 八月十九日</p> | <p>(右) 南無多寶如來 德普院了玄日達 七月十九日</p> <p>(正) 南無妙法蓮華經 了詮院日有大德 七月七日 寬文十二年</p> | <p>(右) 南無多寶如來 延宝元年癸丑歷 顯妙院啓運日示 九月中旬八日</p> <p>(正) 南無妙法蓮華經 音慈院妙觀日儀</p> | <p>(右) 摩滅判読不能 寬文十二年壬子()月</p> <p>(正) 南無妙法蓮華經 淨光品妙眞日修 曆堂住()女</p> <p>(左) 摩滅判読不能</p> <p>(右) 上総国市原群八幡 元禄四辛未五月十四日</p> <p>(正) 隨順院要信日秀 元禄四辛未六月十七日</p> <p>妙法塔 是法院妙證日示</p> |
| 1664 | 1673 | 1691 | 1672 |
| | | | |

| | | | | | |
|-------------------------------------|--|------------------------------------|---|--|--|
| 58 | 57 | 56 | 55 | 54 | 53 |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 58 | 57 | 56 | 55 | 54 | 53 |
| 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 角柱形 |
| 104.5 | 123.5 | 103.0 | 91.5 | 108.0 | 81.0 |
| 39.7 | 44.4 | 38.5 | 38.0 | 39.0 | 28.5 |
| 19.0 | 15.0 | 24.0 | 18.0 | 18.0 | 18.5 |
| (正) 南無妙法蓮華經 □品廣□之住 心應院蓮貞日正 | (正) 南無妙法蓮華經 延寶三乙卯歲 信敬因了圓日行 八月廿九日 | (正) 妙法 三界万靈六親眷屬等 元禄三庚午年三月十九日 | (正) 妙法 祖父光味 慈母 妙珠因信解日要 妻 常性院妙正 施主次男川村氏山城守秀高末□ 川村権七 | (正) 妙法 天和三年癸亥 瑶泉院春日惠靈 六月二十一日終 | (左) 南無釈迦牟尼佛 八月十一日 灵 (正) 南無妙法蓮華經 □光院妙□日淨靈 一月十八日 (右) 南無多寶如來 延寶四(一)(一)灵 一如了(一)(一)灵 二月七日 延寶三乙卯九月 法如院了智日慈靈 |
| | 1675 | 1690 | 1692 | 1683 | 1675 |
| | | | | | |

| | | | | | | |
|---------------|------------------------------------|---|---|----------------------|---|---|
| 65 | 64 | 63 | 62 | 61 | 60 | 59 |
| 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 |
| 4 | 3 | 2 | 1 | 61 | 60 | 59 |
| 笠付形 | 笠付形 | 笠付形 | 笠付形 | 灯籠 | 角柱形 | 板碑形 |
| 145.0 | 137.0 | 151.0 | 148.0 | 106.0 | 97.0 | 109.0 |
| 49.0 | 43.0 | 68.0 | 60.3 | 49.0 | 49.0 | 41.0 |
| 51.0 | 44.0 | 68.0 | 60.8 | 49.0 | 46.5 | 25.0 |
| (左) 施主 丹羽氏 | (正) 梅陽院殿即境妙智日行大姉 明和二乙酉 六月十六日 | (左) 南無釈迦牟尼佛 (正) 南無多寶如來 (右) 南無妙法蓮華經 隨緣院妙米靈 寛文第十六月廿五日 | (正) 貞享四丁卯年 南無妙法蓮華經 日蓮大菩薩 四月八日 (左) 〔 〕 (右) 〔 〕 | (左) 南無釈迦牟尼佛 施主 自身 | (正) 南無 (以下欠損) 寛文十一辛亥 南無妙法蓮華經 妙常院法受靈 十一月十三日 | (正) 貞享三丙寅十月廿七日 妙法 白雲院了晴日明居士 稲田藤左衛門尉藤原長廣 寛文十三癸丑七月廿二日 南無多寶如來 南無妙法蓮華經 學燈日乘靈 南無釈迦牟尼佛 施主中 □ □ □ 村五味七右衛門 |
| 1765 | 1670 | 1687 | 1671 | | 1673 | 1686 |
| | | 正面下部及び左面は法 号多数あるも判読困難。 | | | 寛文十三年 延宝元年。 | |

| | | | | | |
|---|---|---|--|---|--|
| 71 | 70 | 69 | 68 | 67 | 66 |
| 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 |
| 笠付形 | 笠付形 | 笠付形 | 笠付形 | 笠付形 | 笠付形 |
| 171.0 | 151.5 | 162.0 | 179.0 | 177.5 | 191.0 |
| 62.5 | 52.3 | 62.0 | 61.5 | 63.5 | 70.0 |
| 63.0 | 54.0 | 61.0 | 66.0 | 66.5 | 58.5 |
| <p>(左) 南無釈迦牟尼佛</p> <p>(正) 南無妙法蓮華經 日奠聖人 十月二十三日</p> <p>(右) 南無多寶如來</p> | <p>(左) 南無釈迦牟尼佛 願主 甲州針山村市川兵右衛門 二月廿三日立之</p> <p>(裏) 延宝四丙辰年</p> <p>(正) 南無多寶如來 宗蓮日祐 妙法 為六親自身菩提妙奧一千部成就 妻女妙蓮</p> <p>(右) 南無釈迦牟尼佛 睦月中旬八日</p> | <p>(左) 南無釈迦牟尼佛</p> <p>(正) 南無多寶如來 延宝第七己未曆 西谷梅檀林 第九代化主 日然聖人</p> | <p>(正) 妙法塔 三月三日</p> <p>(裏) 大久保隱岐守忠増 元禄九丙子 松久院殿妙長日榮大姉</p> | <p>(正) 妙法 悲母 蓮心院妙實日乘靈 十月二十八日</p> <p>(右) 施主 貞享一甲子年</p> | <p>(正) 見性院前□□從五位機山宗玄大居士 法塔 七月下旬一日 高松院殿涼殿日延壽福位 藤原氏六江佐渡守(一)</p> <p>(裏) 牧野内膳正息女</p> |
| 1667 | 1676 | 1679 | 1696 | 1684 | 1685 |
| 寬文七年化。 身延山二十八世。 | | | | | |

| | | | | |
|---|--------------------------|--|---|---|
| 76 | 75 | 74 | 73 | 72 |
| 3 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 1 | 14 | 13 | 12 | 11 |
| 板碑形 | 笠付形 | 笠付形 | 笠付形 | 笠付形 |
| 108.5 | 142.0 | 139.5 | 160.0 | 164.5 |
| 37.0 | 58.0 | 52.0 | 60.0 | 63.0 |
| 21.0 | 56.5 | 52.0 | 62.0 | 47.0 |
| <p>(正) 南無多寶如來 南無妙法蓮華經 南無釈迦牟尼佛 六月晦日 寛文第乙酉歲</p> | <p>(左) 奉納 明和六年三月</p> | <p>(右) 西八代群栄村 八月十五日 行年四十三才寂ス</p> | <p>(正) 明治十三庚辰 圓光庵 修明院日信聖人位</p> <p>(左) 南無釈迦牟尼佛 武州江戸住枚平孫□□尉母□</p> <p>(右) 南無多寶如來 延寶五丁巳年十二月 妙法塔 春光院妙陽日運靈 是□準人</p> | <p>(右) 南無多寶如來 寛文第九年 二月九日自身立之 清光院□□日心居士 願主加□住人</p> |
| 1669 | 1769 | 1880 | 1677 | 1669 |
| | | | | |

| | | | | | | | |
|------------------|---|---|---------------------------------------|--|---------------------------------|------------------------------------|--|
| 84 | 83 | 82 | 81 | 80 | 79 | 78 | 77 |
| 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 |
| 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 |
| 92.5 | 90.0 | 84.5 | 101.5 | 85.0 | 95.5 | 82.5 | 92.5 |
| 34.5 | 33.3 | 32.6 | 37.0 | 32.5 | 34.0 | 32.0 | 36.0 |
| 20.5 | 17.5 | 14.0 | 20.0 | 18.0 | 17.0 | 21.0 | 22.0 |
| (正) 妙法 (一) | (正) 南無妙法蓮華經 山哲日玄靈 十一月二日 寛文十一辛亥稔 | (正) 妙法 隆照院春如日然法師 十二月二十一日 元禄五壬申稔 | (正) 妙法 母 清心院妙月日淨 施主 越田住清水氏兵衛 | (正) 南無妙法蓮華經 吳性院妙修日了 宝永五戊子九月八日 父 淨池院宗月日光 | (正) 〔 〕 施主 武田養仙院〔 〕 日慈 | (正) 妙法 〔 〕 施主 日惠 高田住自身 | (正) 〔左枿〕 □□□□ 宝永四丁亥三月十七日 〔 〕 日教 慈父 觀行院宗貞日理灵 天和三亥三月廿八日 〔 〕 祖父 安住院休性日貞灵 五月二十日 〔 〕 祖母 妙性日心灵 天和二壬〔 〕 〔 〕 施主 濃田岐卓住〔 〕 七郎左衛門 万治元〔 〕 九月十日 |
| | 1671 | 1692 | 1708 | | | 1707 | 1683 |
| 法号多数。判読困難。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|---------------------------|---|--|----------------------------------|--|---|--|--|---|
| 93 | 92 | 91 | 90 | 89 | 88 | 87 | 86 | 85 |
| 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 |
| 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 |
| 69.0 | 68.5 | 62.3 | 68.5 | 79.5 | 54.0 | 107.0 | 107.5 | 81.0 |
| 29.8 | 27.0 | 26.0 | 27.6 | 29.6 | 31.3 | 38.4 | 37.8 | 32.8 |
| 16.0 | 15.0 | 15.0 | 14.5 | 19.0 | 22.0 | 20.0 | 27.0 | 16.0 |
| (正) 妙法 法受院本誉妙生 竹() | (正) 妙法 正徳六年三月三日 靈鷲院法在日信 施主()未村() | (正) 妙法塔 元禄九丙子年十一月十六日 施主武□池上村□木□右衛門 | (正) 妙法 壽院宗連 元禄三年年 七月廿九日 | (正) 南無妙法蓮華經 法明院妙高灵位 施主江戶住桂山長共□ 寛文九乙酉四月十四日 | (正) 南無妙法蓮華經 蓮喜靈 正月十八日 施主江戶之住本能院日栄 | (正) 南無妙法蓮華經 妙法靈 九月廿二日 達性□道種日恵 寛文十二() 八月十日 | (正) 南無妙法蓮華經 昌院妙繁日住大姉 天和三癸亥年 三月二十五日 加□之住人 | (右枠) 宿坊山□□山城国□安城住人() (正) 南無妙法蓮華經 法 () (左枠) 寛文十二年壬子八月 |
| | 1716 | 1696 | 1690 | 1669 | | 1672 | 1683 | |
| | 千支相違。正徳六年は 享保元年。 千支が正確であるなら ば正徳五年。 | | 修復跡あり。 | 題目に光明显なし。 | 上部破断。 | 修復跡あり。 | | 題目に光明显なし。 |

| | | | | | | |
|--|---|---|---|--|--|---|
| 100 | 99 | 98 | 97 | 96 | 95 | 94 |
| 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 25 | 24 | 23 | 22 | 21 | 20 | 19 |
| 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 蒲鋒形 | 角柱形 | 板碑形 | 板碑形 |
| 48.0 | 63.0 | 88.6 | 62.8 | 71.0 | 65.3 | 81.5 |
| 24.0 | 26.0 | 33.0 | 23.5 | 29.4 | 29.3 | 32.4 |
| 8.0 | 19.0 | 22.0 | 20.0 | 19.3 | 13.5 | 21.0 |
| <p>(正) 元禄九丙子年 妙典千部成就 六月十三日願主了通日縁</p> | <p>(正) 題目一千部 父宗蓮 妙性 造立施宗安日住 敬 母妙蓮 妙哲 白 但馬城崎豊岡住人</p> | <p>(正) 正月五日 本住院常念日□灵 妙法 □乘院妙光靈 十二月十八日</p> | <p>(正) 父 受法院□道日感 妙法 母 常在院妙感日應 靈 施主□中源常□屋□妙観</p> | <p>(左) () 南無妙法蓮華經 清峯院妙雲日涼 泰岳院涼雲日暁 享保十四乙酉年七月二日</p> | <p>(右) () 俗名□作右衛門施主 受源院日種善立妙種 妙慶 各靈 妙法 女受院妙達經運妙要 施主上総國八幡村 ()</p> | <p>(正) () 元禄五壬申七月廿七日 院妙珠 心月院了證 妙法 叔父 修定宗恵 心傳求安 施主越後高田清水 () 教岸妙□各靈</p> |
| 1696 | | | | 1729 | 1704 | 1692 |
| | | | | 右面、左面とも法号多数。 判読困難。 | | |

| | | | | | | |
|-----------------------------------|---|--|---|--|--|--|
| 107 | 106 | 105 | 104 | 103 | 102 | 101 |
| 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 32 | 31 | 30 | 29 | 28 | 27 | 26 |
| 板碑形 | 板碑形 | 角柱形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 角柱形 |
| 101.0 | 100.2 | 87.5 | 74.5 | 82.5 | 82.7 | 66.5 |
| 38.0 | 35.5 | 29.7 | 29.0 | 32.2 | 32.5 | 26.7 |
| 22.0 | 21.0 | 23.7 | 21.0 | 22.0 | 16.0 | 22.8 |
| (正) 南無日蓮大菩薩一千部立願 三月二十八日 為祈念 | (正) 南無妙法蓮華經 南無釈迦牟尼佛悲母 春光院妙慶 (左) 立之 (右) 寛文十庚戌年二月朔日 南無多寶如来 慈父 本性院宗慶靈 | (正) 元禄十六癸未 春明日長造管之 栄運院殿章誉□信慶壽大姉 十月十五日卯刻 (左) 長谷川周防守藤原重章之姉女 | (左) 越後國(一)城郡高田住人 (右) 下之□□中村郷正東山日本赤学徒 春明日長造管之 妙法 有縁両縁法界万灵 悲母妙連灵尼 妙通量□□ (一)月十一日 | (正) 通明院妙了日達 五月十三日 (右) 普光院妙受日(一) 通明院妙了日達 五月十三日 慈父宗連灵位 妙法 有縁両縁法界万灵 悲母妙連灵尼 妙通量□□ (一)月十一日 | (正) 妙法 圓理院妙信日順灵尼 四月立日施主京筒金屋治兵衛 信行院宗悦日了法師 十月十三日 | (正) 妙法 立信院日應法師 九月二十七日 元禄十一戊寅年 |
| 1689 | 1670 | 1703 | | 1676 | | 1698 |
| | | | | 天和三年は千支相違。 よって年代の比定には、 確かな延宝の年号をと る。 | | |

| | | | | | | |
|--|---|--|--|--|---|----------------------------------|
| 114 | 113 | 112 | 111 | 110 | 109 | 108 |
| 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 39 | 38 | 37 | 36 | 35 | 34 | 33 |
| 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 |
| 63.5 | 62.0 | 73.5 | 58.0 | 56.0 | 75.5 | 143.0 |
| 26.9 | 26.2 | 31.3 | 27.6 | 26.0 | 29.0 | 44.5 |
| 14.0 | 15.0 | 19.0 | 14.0 | 14.0 | 20.0 | 24.0 |
| <p>(正) 妙法 悲母 妙祐 多閑 〔 〕 施主侶馬住人 慈父 □□ 宗要</p> | <p>(正) 妙法 奉書写題目一部 母 眞流院法源日受 七月十三日 奉唱首題一千部 父 華徳院蓮授日儀</p> | <p>(正) 妙法 悲母 信解院妙進灵 江戸小石川□□小右衛門 元禄十丁丑年</p> | <p>(正) 妙法 自得院 四月上旬□□日 眞□院□源日了灵 二月二十四日 摩滅判読不能</p> | <p>(正) 妙法 宗悦 各霊 蓮□ 施主上総國八幡村□□ 〔右枠〕施主□□□岩□□ 〔正〕□□□二五□□年</p> | <p>(正) 南無妙法蓮華經 施主江戸□山長兵□ 寛文九己酉九月正月 宝永元年立之</p> | <p>(正) 南無妙法蓮華經 了先院常秀</p> |
| | 1697 | 1673 | | 1704 | 1669 | |
| | | 延宝元年。 | | | 題目に光明点なし。 | |

| | | | | | | | |
|--|--|---|--|--|--|---|---|
| 122 | 121 | 120 | 119 | 118 | 117 | 116 | 115 |
| 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 47 | 46 | 45 | 44 | 43 | 42 | 41 | 40 |
| 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 頂部不明 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 |
| 58.0 | 56.0 | 54.5 | 51.0 | 55.0 | 56.0 | 64.5 | 66.0 |
| 26.8 | 25.0 | 24.0 | 26.0 | 26.9 | 26.3 | 28.0 | 27.3 |
| 19.0 | 13.5 | 15.0 | 17.0 | 18.0 | 20.0 | 17.0 | 16.0 |
| <p>(正) 辛 元禄四年 妙法 怒現父 宗惠栄心 未 四月朔日 妙樹母 妙惠妙珠 法界</p> | <p>(正) 〔 〕 法 妙常靈尼 宗忍靈位 〔 〕 郡 〔 〕 町 〔 〕 金 〔 〕 右衛門</p> | <p>(正) 妙法 息女法信靈 元禄二己巳年正月 〔 〕 施主 〔 〕</p> | <p>(正) 妙法 法道靈 貞享五戊辰年 九月十三日</p> | <p>(左棹) 妙法 宗悟 了堂 妙常 妙悟 妙堂 妙感 同仲衛門</p> <p>(正) 〔 〕 施主 但馬 〔 〕 主 〔 〕 右衛門 宗繁 道繁 妙了 宗延</p> | <p>(正) 妙法 寛文十二年八月廿七日 法元院妙貞靈 常安院宗泰靈 延寶九年六月廿五日</p> | <p>(姓) 妙法 蓮修妙清 慈父 法連靈位 元禄三庚午年二月廿 〔 〕 〔 〕 町 〔 〕 屋 〔 〕 兵衛</p> | <p>(正) 妙法塔 〔 〕 〔 〕 八日 施主江戶 〔 〕 姓妙儀灵</p> |
| 1691 | | 1689 | 1688 | | 1681 | 1690 | |
| | 頂部割丸。 | | 貞享五年 〓 元禄元年。 | | 延寶九年 〓 天和元年。 | | |

| | | | | | | | | |
|--|---|---|-------------------------------|--|---|--|--|----------------------------------|
| 131 | 130 | 129 | 128 | 127 | 126 | 125 | 124 | 123 |
| 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 56 | 55 | 54 | 53 | 52 | 51 | 50 | 49 | 48 |
| 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 |
| 81.5 | 84.0 | 72.0 | 85.0 | 84.0 | 89.0 | 98.0 | 92.0 | 109.0 |
| 32.0 | 33.0 | 29.5 | 30.5 | 32.0 | 34.0 | 35.5 | 3.0 | 39.0 |
| 21.0 | 16.0 | 18.0 | 18.5 | 22.5 | 16.0 | 22.5 | 19.5 | 26.0 |
| (正) 妙法 縁了院妙種日脱 施主松平清太夫母 江戸小石川妙傳寺之〔 元禄元辰年十一月四日 | (正) 南無妙法蓮華經 施主〔 寛文十一辛亥五月二日 玄理院〔 | (正) 妙法 妙春日陽 宗圓日徳 明曆二丙申七月二日 延宝二甲寅九月二十八日 | (正) 妙法 □性院妙圓日□灵 六月十日 | (正) 妙法 本理院妙雲日潤灵 取次江戸下谷善□寺 貞享四丁卯年四月九日 | (正) 南無妙法蓮華經 智春日観 六月二十八日 寛文十三癸丑年 | (正) 妙法 悲母 妙祐靈 施主 江戸小石川大塚太郎兵衛 妹 妙圓靈 | (正) 南無妙法蓮華經 施主 自身 施主加□□住□□平右衛門 寛文十一辛亥十月十七日 母 佛性院慈蓮妙清靈 父 雲□院□脱蓮成靈 | (正) 寛文九己酉年十月廿四日 父 雲□院□脱蓮成靈 |
| 1688 | 1671 | 1674 | 1676 | 1687 | 1673 | | | 1671 |
| | 題目に光明显なし。 | | | | 寛文十三〓延宝元年。 | | | |

| | | | | | | | |
|--|---------------------------------------|--|---|---------|---|---|---|
| 139 | 138 | 137 | 136 | 135 | 134 | 133 | 132 |
| 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 64 | 63 | 62 | 61 | 60 | 59 | 58 | 57 |
| 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 |
| 101.0 | 115.5 | 104.5 | 102.5 | 128.0 | 103.5 | 86.0 | 97.0 |
| 38.0 | 43.5 | 38.0 | 39.5 | 45.5 | 39.0 | 32.6 | 33.0 |
| 26.0 | 27.0 | 25.0 | 27.0 | 32.0 | 20.0 | 18.0 | 14.5 |
| <p>(正) 妙法 受性院妙心了靈 延宝七己未六月十八日</p> <p>施主□□女谷中本行寺之□ 妙光院善意日貞</p> | <p>(正) 妙法 清心院妙行日到 松村女</p> | <p>(正) 越後高田守栄山善行寺□典 貞享二乙□歳 幸善院日祐大□ □奉読誦()</p> <p>日祐大徳 施主江戸室町二丁高木□兵□</p> | <p>(正) 妙法 慈母 圓成院妙遠日教 施主江戸室町二丁高木□兵□</p> <p>天和二壬戌九月八日 慈父 智性院常祐日恵灵</p> | | <p>(正) 南無妙法蓮華經 南無釈迦牟尼佛 妙慶</p> | <p>(正) 帰本 詮量院法常日住 居士 六月廿二日 前田大七郎 延宝五丁巳年 加□之住人</p> | <p>(正) 南無妙法蓮華經 悲母 妙意靈 七月十二日 妙順日圓灵 六月廿六日 施主江戸() 妙慶日意 妙法日宋</p> <p>寛文三年 二月廿七日 慈父 宗清靈 明暦元年 寛文十二年 七月十二日</p> |
| 1679 | | 1685 | 1682 | | | 1677 | 1672 |
| | | 守栄山善行寺二十五世。 | | 摩滅判読不能。 | | | |

| | | | | | | | | |
|--|--|--|--|-----------------------|---|---|---|--|
| 147 | 146 | 145 | 144 | 143 | 142 | 141 | 140 | |
| 4 | 4 | 4 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| 3 | 2 | 1 | 69 | 68 | 67 | 66 | 65 | |
| 角柱形 | 笠付形 | 笠付形 | 板碑形 | 自然石 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | |
| 87.5 | 112.0 | 123.0 | 115.0 | 121.0 | 111.0 | 111.5 | 107.5 | |
| 31.0 | 26.0 | 28.0 | 40.0 | 55.0 | 40.0 | 38.5 | 38.3 | |
| 30.5 | 26.0 | 28.0 | 28.0 | 33.0 | 26.0 | 22.0 | 23.0 | |
| (左) 南無釈迦牟尼佛 (正) 南無妙法蓮華經 (右) 南無() 寛文十二壬子年 從心院見の日拘大徳 正月廿七日 | (左) 南無釈迦牟尼佛 (正) 南無妙法蓮華經 (右) 南無多寶如來 正月上旬七 清水□□□□ 明信院□爾了護 | (左) 南無釈迦牟尼佛 (正) 南無妙法蓮華經 (右) 南無多寶如來 寛文九己酉 中村□衛門 | (左) 南無妙法蓮華經 (正) 南無妙法蓮華經 (右) 南無多寶如來 加□住人 本池院宗春日善 中村□衛門 | (正) 南無妙法蓮華經 施主自身立之 | (正) 南無妙法蓮華經 慈父 宗忠 功德主日順 悲母 妙圓 灵 () 廿四日 | (正) 妙法 示□院妙善日誦 元禄五壬申年三月二十六日 貞享二□□□月十日 □□院□意 () | (正) 南無妙法蓮華經 心性院妙月日詠靈 閏六月十九日 寛文第十二壬子年 俗名山口善右衛門 | (正) 南無妙法蓮華經 受住院妙賢日 () 延宝八庚申七月廿二日 是覚院日相 俗名山口善右衛門 |
| 1671 | 1669 | | | | 1692 | 1672 | 1680 | |
| | | | | | | | | |

| | | | | |
|--|-----------------------------------|---|--|--|
| 152 | 151 | 150 | 149 | 148 |
| 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 8 | 7 | 6 | 5 | 4 |
| 角柱形 | 角柱形 | 角柱形 | 角柱形 | 角柱形 |
| 61.5 | 98.0 | 85.0 | 80.0 | 91.0 |
| 27.5 | 40.8 | 29.5 | 28.5 | 31.5 |
| 18.0 | 23.0 | 30.0 | 28.5 | 31.5 |
| <p>(左) 寛保三年癸亥閏四月六日 (正) 自得院一斉日清居士 (右) 紀州藩中 小出修八 再建之</p> | <p>(正) 南無妙法蓮華經 華光院貞岳妙應日應</p> | <p>(左) 南無釈迦牟尼佛 白川氏</p> <p>(正) 南無妙法蓮華經 真如院叙玄妙意 三月二十一日</p> <p>(右) 南無多寶如來 寛文十庚戌年</p> | <p>(左) 南無釈迦牟尼佛 勇□院妙推日理</p> <p>(正) 南無妙法蓮華經 万治元戊戌十月三日</p> <p>(右) 南無多寶如來 延宝五丁巳二月十七日 高長院壽□日證</p> | <p>(右) 施主江戸朝倉□部 妙光 蓮教 妙占</p> <p>(正) 南無妙法蓮華經 題目百部 市□道宗 常□妙意 道相</p> <p>(左) 道圓 市□ 妙意 圓性 理清 成就之□ 雲清 德永 妙久 妙乘</p> <p>受貞 清久 妙占 宗意 妙清 法界</p> <p>□□ □□ □□</p> |
| 1743 | | 1670 | 1677 | |
| | | | | |

| | | | | | | | |
|--|-------------------------|-------------------------|---------------------------------|--|-----------------------------------|-------------------------------|-----------------------------|
| 159 | 158 | 157 | 156 | 155 | 154 | 153 | |
| 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | |
| 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | |
| 角柱形 | 蒲鉾形 | 蒲鉾形 | 角柱形 | 角柱形 | 角柱形 | 角柱形 | |
| 112.0 | 65.0 | 65.0 | 74.0 | 77.0 | 61.0 | 56.0 | |
| 28.0 | 26.0 | 25.5 | 27.0 | 29.5 | 25.5 | 22.0 | |
| 28.0 | 23.5 | 15.0 | 28.0 | 29.5 | 19.0 | 21.5 | |
| (左) 施主 理性院妙諦日淨 淨眞院蓮性日清 九月□日 宗雲 秋□妙泉日成 寛文二 妙久 □月十二日 寛文六 妙法塔 心月宗仙日感 三月二十九日 法界万灵 妙園 十一月十一日 道□妙久 閏三月上旬三 明暦元年 八月十六日 | (正) 智達院眞浄日諦淑靈 閏三月上旬三 | (正) 正徳六丙申年 智達院眞浄日諦淑靈 | (正)(右) 寛延元戊辰十二月廿一日 榮信院如来日□信尼 | (左) 出氏幸弁造立 常寂院 日修大徳 六月十六日 (正) 寶永六己丑年 | (正) 妙法塔 宝永三丙戌年 覺心院日照日常靈 十二月廿五日 | (正) 妙法 智岸妙證信女 五月十八日 安永元□子年 | (正) 量壽院妙詮日境信女 (右) 俗名 佐野女 |
| | 1716 | 1748 | 1709 | 1706 | 1772 | | |
| | 正徳六年 享保元年。 | | | | | | |

| | | | | | | |
|------------------------------|--------------------------------------|---|---|--|--|--------------------------------------|
| 166 | 165 | 164 | 163 | 162 | 161 | 160 |
| 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 22 | 21 | 20 | 19 | 18 | 17 | 16 |
| 角柱形 | 角柱形 | 角柱形 | 板碑形 頂部不明 | 蒲錘形 | 角柱形 | 角柱形 |
| 36.5 | 42.0 | 58.0 | 48.0 | 66.0 | 54.0 | 52.0 |
| 17.0 | 14.0 | 15.5 | 27.0 | 24.0 | 22.5 | 25.0 |
| 14.5 | 14.0 | 13.0 | 14.0 | 17.5 | 18.0 | 20.0 |
| (左) 摩滅判読不能 (正) 妙法 妙〔 〕 信女 | (左) 妙春日壽尼 (正) 四月二十八日 (右) 嘉永四亥年 | (左) 江戶俗名人江次郎兵衛 (正) 圓心宗理 (右) 元禄十一戊寅七月廿一日 | (正) 妙持 〔 〕 年立之 道明 各靈 施主上総國八幡村金〔 〕〔 〕〔 〕 | (正) 妙法塔 母 信立院妙悦日能 (右) 施主京都筒金屋〔 〕兵衛 父 享保三年戊戌年五月十六日 妙行院淨悦日善靈 | (左) 正徳年二月十日 覚〔 〕宗貞日元〔 〕 俗名林五右衛門〔 〕 母 妙信 同 子 祐覚 父 青祐 同 妻 妙貞 祖父 妙祐 同 兄 秋金 祖母 妙祐 同 弟 生国 (正) 妙法 御廟清掃除數年相勤卒 三つの思〔 〕 二世〔 〕 | (正) 妙法 母 法吳院妙〔 〕日〔 〕 父 真理院日徹法師 |
| | 1851 | 1698 | | 1718 | 1714 | |
| | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|--|---|---------------------------------|-------------------------------|---|------------------------------------|--|
| 174 | 173 | 172 | 171 | 170 | 169 | 168 | 167 |
| 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 30 | 29 | 28 | 27 | 26 | 25 | 24 | 23 |
| 角柱形 | 蒲鉾形 | 角柱形 | 角柱形 | 蒲鉾形 | 角柱形 | 笠付形 | 角柱形 |
| 76.0 | 62.0 | 59.0 | 55.5 | 50.0 | 127.0 | 133.0 | 45.0 |
| 28.0 | 27.0 | 28.0 | 24.0 | 25.0 | 37.0 | 34.0 | 20.5 |
| 28.0 | 20.5 | 26.0 | 18.0 | 16.5 | 37.0 | 34.0 | 15.5 |
| <p>(左) 南無釈迦牟尼佛</p> <p>(正) 南無妙法蓮華經 父羽宗() 十二月朔日 寛文九() 母妙心() 十一月廿八日 施主江戸喜() 右衛門</p> <p>(右) 南無多寶如来 寛文五年</p> | <p>(左) 延享三丙寅六月四日 覺性院妙縁日修靈尼</p> <p>(右) 俗名 志村女</p> | <p>(正) 妙法 享保八癸卯年 長運院道()日明 正月二日</p> | <p>(正) 慶法院日寶聖人 読誦妙典五万余部</p> | <p>(正) 妙法 順貞日喜 法月二十四日</p> | <p>(左) 南無釈迦牟尼佛 四月() 悲母 浄() 院修 ()</p> | <p>(左) 十一月初三日 本光院殿義天妙證日()</p> | <p>(正) 延享四丁卯天 教利院妙通日沾 七月八日 土肥氏立之</p> |
| | 1746 | 1723 | 1793 | | | | 1747 |
| | | | | | | | |

| | | | | | | |
|---------------|--|--|--|---|--|---|
| 181 | 180 | 179 | 178 | 177 | 176 | 175 |
| 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 37 | 36 | 35 | 34 | 33 | 32 | 31 |
| 角柱形 | 角柱形 | 角柱形 | 角柱形 | 角柱形 | 角柱形 | 角柱形 |
| 80.0 | 90.0 | 96.0 | 81.5 | 106.5 | 110.0 | 81.0 |
| 26.5 | 32.0 | 27.0 | 28.0 | 33.0 | 28.0 | 28.5 |
| 25.0 | 31.0 | 35.5 | 28.0 | 31.5 | 29.0 | 28.0 |
| (正) 妙法蓮成院妙信日輝 | (左) 防□岩國之産箕祖母山田左近右衛門識真建之 寶永六年五月十二日 諸氏 然院直浄日□大信尼 寛保三亥十二月十四日 山田 信徳院觀解日道大信尼 宝永四年五月十日 姓氏 了性院妙為日修大信尼 享保丁酉十一月七日 紀 | (正) 南無多寶如來 (左) 南無妙法蓮華經 (右) 南無釈迦牟尼佛 | (正) 南無妙法蓮華經 母 寶聚院自得妙仁日□ () 施主吉村□六 | (正) 南無釈迦牟尼佛 寛文十戌年 俗名□傳右衛門 父 正宝院宗蓮日勝 | (正) 南無多寶如來 () 南無妙法蓮華經 智應院妙善日 () 先考院宗圓畫 寛文六丙午正月三日 先 二月十三日 清□院妙慶日□ 延宝六戊午四月 () | (正) 南無多寶如來 () 南無妙法蓮華經 法珠院妙要日修 造立主越後國高田住小□太郎衛門 延寶元癸丑年 |
| 1714 | 1709 | | 1670 | 1678 | 1673 | |
| | | | | | | |

| | | | | | | | |
|----------------------|---|--|--|--------------------------|--|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 189 | 188 | 187 | 186 | 185 | 184 | 183 | 182 |
| 5 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 1 | 44 | 43 | 42 | 41 | 40 | 39 | 38 |
| 蒲錐形 | 円柱形 | 板碑形 | 板碑形 | 角柱形 | 角柱形 | 角柱形 | 角柱形 |
| 71.0 | 87.5 | 70.0 | 80.0 | 94.0 | 75.5 | 71.0 | 74.0 |
| 41.5 | 49.0 | 30.5 | 30.5 | 46.0 | 20.0 | 27.0 | 30.0 |
| 41.5 | 49.0 | 16.0 | 23.0 | 49.0 | 25.0 | 25.5 | 23.5 |
| (左) 善淨□種信女 俗名加布女□ | (左) 明治七甲戌年九月廿九日 施主 正木□兵衛□ 信受院了悟日順 | (正) 寬文十二壬子年 南無妙法蓮華經 慈大隨緣院宗順日悟 悲地真善院妙順日有 四月三日 | (正) 同會 勇信院正受日建居士 日林靈位天和三四月八日 本法寺□郡 | (正) 妙法 了善日達靈位 為七年忌之□□ | (左) 先□妙壺院智嚴圓相日現 當信身延山之靈跡生涯□ 而仰之□捨□其平日之落 □活埋之于此□於之建碑 收薦冥福 | (正) 南無妙法蓮華經 修善院妙長一覺 蓮德院大姉信女 俗名松村 | (正) 天和三年癸亥 雲妙院殿天秀日生大居士 正月上旬一日 |
| 1874 | 1672 | 1683 | | 1716 | 1708 | | 1683 |
| | | | | 正德六年 享保元年。 | | | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|--|---|
| 196 | 195 | 194 | 193 | 192 | 191 | 190 |
| 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 |
| 自然石形 | 円柱形 | 角柱形 | 蒲鉾形 | 蒲鉾形 | 角柱形 | 蒲鉾形 |
| 96.0 | 91.0 | 88.0 | 59.0 | 49.0 | 39.0 | 72.5 |
| 73.0 | 49.0 | 41.5 | 24.6 | 23.0 | 21.0 | 37.0 |
| 64.0 | 49.0 | 37.5 | 14.8 | 16.0 | 13.8 | 36.0 |
| <p>(正) 本妙院日遙墓 正月上旬二日 安永八巳亥年 八十八翁 行年</p> | <p>(左) 本妙房代々 (正) 平等院日恵大徳 (右) 天保三辰六月廿六日去</p> | <p>(左) 妙審童女 □妙日報法師 (正) 本地院妙恵日瑞 信女 實種院妙善 信女 (右) 進善日精信士 實性妙中信女 善徳院受苗 信士</p> | <p>(左) 江戸芝金杉正(一) (正) 寛政 驚峯院日 現壽院日慈(下部欠損) 寛政十一己未歲九月三</p> | <p>(正) 圓惠院日寛聖人 正月廿一日 天明四辰年 實相院殿妙空日□大姉 觀性院殿道休日軌居士 天明八申十二月十七日</p> | <p>(正) 施主□井戸氏 □常妙□ (右) 天明二寅七月三日 實相院殿妙空日□大姉</p> | <p>(正) 妙法 (右) 嘉永六癸丑年三月十三日 晴心法悟信女 精存妙故信女</p> |
| 1779 | 1832 | | 1799 | 1788 | 1853 | |
| | | | | | | 摩滅判読不能。 |

| | | | | | | |
|---|--|--|---|-----------------------|---|---|
| 203 | 202 | 201 | 200 | 199 | 198 | 197 |
| 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 |
| 自然石形 | 蒲鉾形 | 角柱形 | 笠付形 | 自然石形 | 自然石形 | 自然石形 |
| 101.0 | 56.0 | 91.5 | 175.0 | 89.5 | 103.0 | 104.0 |
| 51.0 | 23.6 | 30.5 | 72.5 | 52.0 | 58.0 | 72.0 |
| 44.0 | 14.7 | 42.0 | 75.6 | 52.0 | 62.0 | 61.0 |
| <p>(正) 妙法 塩入院寛月灵 八月十九日</p> <p>俗名 塩見惣右衛門一成</p> | <p>(正) 妙法塔 延享三丙寅年 妙意日信靈 七月二十二日</p> | <p>(裏) (正) 栄壽院妙久日長 先得院妙栄日耀 宝永三丙戌二月十二日□</p> <p>宋林院哲冒日長 十月二(一)〃</p> <p>(右) 通玄院宗運日義</p> | <p>(正) 南無妙法蓮華經 寛永十二乙亥年九月晦日 圓教院本遠妙體日具靈</p> | <p>(正) 日感聖人取骨</p> | <p>(正) 妙法塔 當二世 享保十乙巳年 壽量院日□墓 正月二十八日</p> | <p>(正) 妙法塔 元禄四辛未年 道樹院日證大徳 六月十七日</p> |
| 1697 | 1746 | 1706 | 1635 | | 1725 | 1691 |
| | | | | | | |

| | | | |
|---|--|---|--|
| 207 | 206 | 205 | 204 |
| 5 | 5 | 5 | 5 |
| 19 | 18 | 17 | 16 |
| 角柱形 | 頂部不明 板碑形 | 角柱形 | 角柱形 |
| 56.5 | 61.0 | 100.0 | 110.0 |
| 24.2 | 27.5 | 47.0 | 51.0 |
| 18.0 | 17.0 | 50.0 | 45.0 |
| <p>(左)</p> <p>常□院妙靈日鷲 天明二□年八月二十七日 貞意信女</p> <p>寬政六甲寅年八月八日 壽人院妙長日好信□ 寬□六()</p> <p>圓光□悟信士 □月二十()</p> | <p>(右)</p> <p>宝曆七丑年九月十二日 玄理院淨照日祐 光照院妙玄日意 安永二巳年八月十五日</p> <p>(正)</p> <p>寬政二戌年九月二十四日 宗受院淨榮日玄 靈</p> <p>(正)</p> <p>妙法 一如院學心靈位 十二月廿一日干時十歲</p> <p>宝永五戌子年 俗名□()</p> | <p>(右)</p> <p>施主 本光房目久 宝永四丁亥年 妙法 長遠院日宗大德 五月廿八日</p> <p>(正)</p> <p>二月四日 宝永四年丁亥七月十七日</p> <p>角傳妙英</p> | <p>(右)</p> <p>元禄十七甲申年 華江何妙卯 二月四日 了法生智禪門 各灵</p> <p>正月二十四日 正究貞春</p> <p>(正)</p> <p>妙法 寶性院淨眞日感 靈 施主江戶芝□町松浦□右衛門 七月晦日</p> <p>(左)</p> <p>感秋妙應 寺賢妙了 各靈</p> |
| 1794 | 1708 | 1707 | 1707 |
| 寬政六年か。 | | | |

| | | | | | | | | |
|--|---|---|-----------------------------------|-----------------------------|--|---|---|--|
| 216 | 215 | 214 | 213 | 212 | 211 | 210 | 209 | 208 |
| 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 28 | 27 | 26 | 25 | 24 | 23 | 22 | 21 | 20 |
| 板碑形 | 蒲鉾形 | 板碑形 | 板碑形 | 自然石形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 | 板碑形 |
| 72.0 | 60.5 | 62.5 | 40.0 | 185.0 | 63.0 | 55.0 | 82.0 | 76.4 |
| 26.8 | 23.0 | 28.0 | 32.8 | 215.0 | 30.5 | 27.9 | 31.5 | 31.0 |
| 18.0 | 18.0 | 17.0 | 10.0 | 不 | 10.0 | 11.0 | 17.0 | 13.0 |
| (正) 妙法塔 悲母 妙圓靈位 七月廿四日 元禄十三庚辰年 | (右) □ □ 遠照寺十四世 妙覺房日念法師 享保十九甲寅年 六月中旬十六日 | (左槽) 元禄五壬寅三月九日 妹 妙 □ 靈 妹 慈父宗春靈妙意 二月十八日 | (正) 妹 妙善靈 貞享三年丙寅 〔 〕 界町秋元玄春 | (正) 〔 〕 悲母妙 □ 靈 〔 〕 法界万靈 | (正) 妙法 覺性院宗 □ 靈 元禄十二己卯年 七月四日施主 〔 〕 | (正) 妙法 父 國宗靈 天和二壬戌八月廿八日 妙春尼二月廿八日 母 妙宗 十一月廿三日 □ □ 主長圓日相 | (正) 妙法 江戶淺草本法寺中興 良教院日慶聖人 元禄九丙子六月廿七日 | (正) 妙法塔 法池院連清日 □ 涼池院妙信日清 施主江戶 〔 〕 二月廿一日 |
| 1700 | 1734 | 1692 | | | 1699 | 1695 | 1696 | |
| | | | 頂部欠損。 | | | | | |

| | |
|---|--|
| 218 | 217 |
| 5 | 5 |
| 30 | 29 |
| 角柱形 | 板碑形 |
| 31.3 | 85.0 |
| 24.5 | 34.0 |
| 18.5 | 19.0 |
| (正) 妙法 寛保三癸亥年 長秀日久法師 四月上旬四日 | (正) 速須靈位 宝永二乙酉歳八月下旬九日 妙法 妙須信女 梅窪安左衛門 |
| 1743 | 1705 |
| | |

○総番号は、石造物の所在する地域順である。

○寸法は、それぞれの最大値を計測し、単位はセンチメートル（cm）である。

また、「未」とあるのは、主に大型の石造物で未計測のものを差している。

○（右）は石造物の右面、（正）は正面、（左）は左面、（裏）は背面である。

また、（右枠）（左枠）としたものは、主に板碑形の石造物の、左右側枠部分を指している。

○原文の通りに表記することを原則としたが、一部異体字および旧字体を現行の字体に改めたものがある。

○破損・摩滅により紀年銘の判読ができない場合、字数の判明するものは□、字数が不明のものは（ ）で示した。

○西暦は、複数の年代を含むものは、最も新しい年代によって比定した。

また、年号・干支のどちらかの情報によって推定したものがある。

○原則、明治年号を含むものは除外したが、データの集計上、一部含むものがある。

○本表には一部省略したデータが存在する。